



有佐小だより

令和5年9月6日

第5号

文責 岩見 浩史

「やる気スイッチ」をONにして

いよいよ2学期がスタートしました。始業式では校長から「やる気スイッチ」について話しました。やる気スイッチが入っていないと、ボーッと勉強に身が入りません。学校で頭と心と体を鍛え、ぐんぐん成長するために、やる気スイッチをONにしようという話です。やる気スイッチをONにする方法を子どもたちにも考えさせましたが、「朝ごはんをしっかり食べる」や、「早寝・早起きをする」など考えて発表してくれました。子どもたちも「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さはちゃんと分かっているんだなあと思いました。



それにつけ加えて、大リーグで活躍する大谷選手が高校生の時に作った曼荼羅(まんだら)チャートを紹介して、「自分が達成したい目標を決めて計画を立てる」ことを話しました。「どのような自分になりたいかイメージして、どうすればそうなれるか具体的に取り組むことを考える」ことにより、やる気がわいてきます。「計画したことを一つ一つ実行することで目標に近づき、さらにやる気が高まる」という、よい循環を生み出すことができます。

もう一つ、「休み時間は友だちと仲良く元気に体を動かして遊ぶ」ということを話しました。昼にしっかり活動することで、夜はよく寝ることができます。成長期の子どもにとって睡眠は非常に大切です。また、友だちと楽しく過ごすことで学校に来るのが楽しみになります。熱中症に注意しながら、元気に遊んでもらいたいと思っています。

その後、それぞれの学年で2学期の目標を立てている姿を見ました。5年生は、さっそく自分の曼荼羅チャートを作成していました。ぜひ、立てた目標に向かって、成長する2学期にしてほしいと願いました。

子どもの生活と「メディア」

8月に筑紫女学院大学教授の原 陽一郎先生の講演を聴きました。演題は「子どもの生活と『メディア』」～「新しい時代」だからこそです。子どもたちの発達について深く考えさせられる内容でしたので、ぜひ保護者の皆さんにもお伝えしたいと思います。

- Society5.0 時代(仮想空間と現実空間が高度に融合された社会)は、我々を幸せにするか分からないがICTを使いこなしていく必要がある。
- 今、学童期以降に起きている問題として、「子どもが体を思うように動かさない」「スマホ内斜視(目が寄る)」「スマホ難聴」「愛着形成不全(人を信頼できない)」などが挙げられる。
- 子育てを「しない(したくない)」大人が増えている。大人自身が「自分の都合を優先できる経験」が増加し、「自分を他者に合わせる経験」が少なくなった。子育ては費用もかかる。「子育てはめんどくさい」「自分の人生の邪魔になるもの」と認識する大人が増えた。
- 「メディア」依存になってしまう時期が早く、深刻化している。スマホやゲームは、強い刺激により興奮が生み出され、「快」が生じやすく中毒になりやすい。一度その「快」に慣れると、さらに大きな刺激でないと「快」が生じなくなる。「麻薬中毒」に近い。
- 依存にならないためには、「メディア(スマホ・ゲーム・動画等)」以外の楽しい遊びをたくさん経験することが重要である。子ども同士の響き合いも大切である。
- 子どもは自動的に育たない。環境との相互作用で育つ。子どもの発達のためには、よい体験(具体的な事物・本物との豊かな出会い)の積み上げが必要である。